

天文学とプラネタリウム

第50回



今月のお題

お札に見る天文学



各地のお札にはその場所の個性が現れるもの。
今回は台湾と韓国のお札に見る宇宙への窓をご紹介します。



www.tenpla.net

高梨直紘 (国立天文台 広報普及室)

平松正顕 (台湾 国立清華大学)

お札と科学。

台湾に赴任して一か月が経ちました。初任給もいただき、小さいころからの夢であったプロの天文学者になったのだなあ感慨深い日々です。まだまだ任期付研究員ですので安定した職につくまでは時間がかかるかもしれませんが、一步一步進んでいきたいと思います。

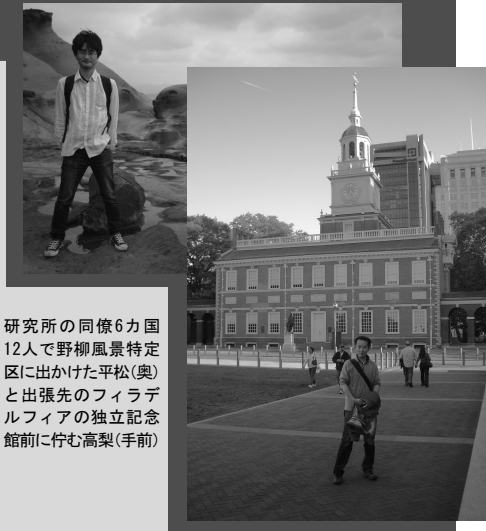
とそんな感慨に浸りながら台湾のお札を眺めていたら、うすすら望遠鏡が描かれているのに気づきました。台湾の通貨単位は、元(ゲン)あるいはNTD(ニュー台湾ドル)と呼ばれているのですが、望遠鏡が描かれているのは1000元札です。青っぽいお札の中央には地球儀を指さす子供たち、その右には顕微鏡をのぞきこむ女の子、そして左側に望遠鏡があります。小学校によくあるくらい、あるいは天文趣味を始めただばかりの人でも使えるような小口径屈折望遠鏡が、ビクセンのGP?を思わせる赤道儀に載せられています。モータードライブの付き方なんかはGPそのものです。図柄の意図はわかりませんが、教科としては理科社会にまたがる広い教

養と教育の大切さ、あるいは地球を真ん中に顕微鏡と望遠鏡を左右に配置して世界の大きさあたりを表現しているのでしょうか。

また、あまり流通していない最高額紙幣2000元札というものもあります。日本の2000円札もあまり見かけませんがそれよりもはるかにレアなようで、こちらの大学の先生も見ることがないと話していました。そんなわけで筆者もまだ実物を見たことはないのですが、そちらには衛星通信用と思しきパラボラアンテナ群、人工衛星、そしてロケットが描かれているようです。台湾の産業の柱は情報技術ですから、それを如実に示す絵柄ですね。

実は、韓国のお札にも天文関連の図柄があります。10000ウォン札には昔の天体観測器具である渾天儀と、韓国の天文学研究の中心機関であるKASIの普賢山光学天文台にある口径1.8m反射望遠鏡が描かれています。これも科学技術の歴史と現在の発展を現わしているのでしょうか。望遠鏡というのは案外「絵になる」存在なのかも。

日本のお札は人物像が基本ですが、数年前に発行された新札からは科学者である野口英世が



研究所の同僚6カ国12人で野柳風景特定区に出かけた平松(奥)と出張先のフィラデルフィアの独立記念館前に佇む高梨(手前)

描かれていますね。お札とはちょっと違いますが、日本天文学会設立100周年を記念した切手シートも先日発売されました。海外のお札や切手などはなかなか日本国内ではお目にかかることはありませんが、海外に出かけてみたときなどは科学や宇宙の香りのする絵柄を探してみるのも楽しいかもしれませんね。